

著者名:	論文題名:	掲載誌名:	掲載巻:	掲載号:	発行年:	掲載頁:
大関将一	ステューア著『ヘーゲルの哲学』	思想		61	1926	p76~85
仲小路彰	弁証法の論理的基礎に関する問題—ヨナス・コーンの『弁証法の論理』に対する批判	ヘーゲル及弁証法研究		6	1929	p18~34
仲小路彰	弁証法の論理的基礎に関する問題—ヨナス・コーンの『弁証法の論理』に対する批判	ヘーゲル及弁証法研究		7	1929	p27~34
内田義彦	田中吉六『スミスとマルクス』／難波田春夫『スミス・ヘーゲル・マルクス』	日本読書新聞		461	1948	p2
樫山欽四郎	三枝博音『ヘーゲル論理の科学』	日本読書新聞		520	1949	p2
小松撰郎	三浦つとむ『弁証法 いかにかに学ぶべきか』	日本読書新聞		546	1950	p3
陶山務	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』(信太正三訳)	日本読書新聞		542	1950	p2
三浦つとむ	松村一人『弁証法と過渡期の問題』	日本読書新聞		529	1950	p2
榊田啓三郎	レヴィット『ヘーゲル・マルクス・キェルケゴール』(柴田治三郎訳)	日本読書新聞		590	1951	p2
山崎 謙	松村一人『弁証法とはどういうものか』	日本読書新聞		581	1951	p2
氷上英廣	K. レヴィット『ヘーゲルからニーチェへ』(柴田治三郎訳)	日本読書新聞		647	1952	p2
榊田啓三郎	K. レヴィット著『ヘーゲルからニーチェへ』(柴田治三郎訳)	図書新聞		149	1952	p2
真下信一	小松撰郎『弁証法入門』	日本読書新聞		718	1953	p2
柳田謙十郎	松村一人『弁証法の発展』／梅本克己『人間論』	日本読書新聞		698	1953	p2

乾 孝	三浦つとむ『弁証法はど ういう科学か』	日本読書新 聞	838	1956	p2
小松摂郎	寺澤恒信著『認識論史』 ／森宏一著『弁証法的唯 物論』	図書新聞	362	1956	p6
寺澤恒信	三浦つとむ著『弁証法は どういう科学か』	図書新聞	333	1956	p2
山崎 謙	ポリツェル、ベス、ガウン ク編『講座哲学 I 弁証 法の科学』(竹内良知・田 辺振太郎・関戸嘉光・静 間良次・菅原仰・高橋進 訳)	図書新聞	349	1956	p6
小松摂郎	黒田寛一著『経済学と弁 証法』	図書新聞	384	1957	p4
黒田寛一	梯秀明『ヘーゲル論理学 と資本論』	日本読書新 聞	1032	1959	p3
梅本克己	マルクーゼ『理性と革命』	日本読書新 聞	1130	1961	p2
大村晴雄	船山信一『ヘーゲル哲学 の体系と方法』	日本読書新 聞	1114	1961	p2
大村晴雄	樫山欽四郎『ヘーゲル精 神現象学の研究』	日本読書新 聞	1114	1961	p2
信太正三	樫山欽四郎『ヘーゲル精 神現象学の研究』	週刊読書人	386	1961	p4
高峯一愚	武市健人著『ヘーゲルと マルクス』	図書新聞	612	1961	p4
高峯一愚	樫山欽四郎著『ヘーゲル 精神現象学の研究』／船 山信一著『ヘーゲル哲学 の体系と方法』	図書新聞	655	1962	p4
生松敬三	船山信一著『ヘーゲル哲 学体系の生成と構造』 『哲学読本』	図書新聞	730	1963	p4
横地房彦	J.v.D.モイレン著『ヘーゲ ル・分裂せる中辞』 (Hegel. Die gebrochene Mitte. Felix Meiner Verlag, 1958)	Philosophia	45	1963	p123~125

徳永恂	現代批判とヘーゲル—アドルノ『ヘーゲル三篇』をめぐって	思想		501	1966	p84~92
廣松 渉	岩崎允胤著『弁証法と現代社会科学』	図書新聞		899	1967	p6
岡 昌宏	中埜肇著『ヘーゲル』	図書新聞		993	1968	p2
岡 昌宏	中埜肇『ヘーゲル—理性と現実』	日本読書新聞		1490	1969	p6
岩崎允胤	本多修郎『ヘーゲルと自然弁証法』	日本読書新聞		1541	1970	p6
加藤尚武	中埜肇『ヘーゲル』	日本読書新聞		1561	1970	p6
竹内良知	渡辺啓著『認識論と弁証法』	図書新聞		1073	1970	p3
竹内良知	中埜肇著『ヘーゲル』	図書新聞		1059	1970	p3
長谷川 宏	榎山欽四郎著『ヘーゲル論理学の研究』	図書新聞		1089	1970	p2
廣松 渉	イッポリット『マルクスとヘーゲル』	週刊読書人		855	1970	p4
武藤三千夫	ヘンクマン『ヘーゲル文献目録』	美学	21	3	1970	p31~41
石井伸男	G・シュティラー『カントからヘーゲルまでの観念論』(G. Stiehler: Der Idealismus von Kant bis Hegel—Darstellung und Kritik 1970)	哲学誌		14	1971	p121~125
大村晴雄	榎山欽四郎著『ヘーゲル論理学の研究』	創文		94	1971	p24~27
K	K. フィッシャー著『ヘーゲルの生涯—著作と学説』	日本読書新聞		1619	1971	p6
永井 博	本多修郎『ヘーゲル弁証法と科学』	日本読書新聞		1598	1971	p6
中埜 肇	フィッシャー『ヘーゲルの生涯』	週刊読書人		898	1971	p4
長谷川宏	細谷貞雄『若きヘーゲルの研究』	週刊読書人		900	1971	p5
花崎奉平	細谷貞雄『若きヘーゲルの研究』	日本読書新聞		1619	1971	p6

浜井 修	E. トーピッチュ『ヘーゲルの社会哲学』	日本読書新聞		1619	1971	p6
廣松 渉	津田道夫『ヘーゲルとマルクス』	週刊読書人		318	1971	p4
藤本隆志	本多修郎著『ヘーゲル弁証法と科学』	図書新聞		1108	1971	p2
岩城見一	アンドラス・ホルン『芸術と自由』－ヘーゲル美学の批判的解釈	美学	23	1	1972	p53～57
小林靖昌	谷嶋喬四郎著『弁証法の社会思想史的考察－ヘーゲル・マルクス・ウェーバー』	実存主義		60	1972	p94～97
五十嵐靖彦	イポリット著、市倉宏祐訳『ヘーゲル精神現象学の生成と構造』	実存主義		65	1973	p105～107
加藤尚武	速水敬二『ヘーゲルの修業遍歴時代』	日本読書新聞		1718	1973	p7
吉田傑俊	唯物論的止揚の「可能性と必然性」の問題－許萬元『ヘーゲル弁証法の本質』によせて	科学と思想		8	1973	p171～194
沖田和光	長谷川宏『ヘーゲルの歴史意識』	週刊読書人		1057	1974	p4
加藤尚武	長谷川宏『ヘーゲルの歴史意識』	日本読書新聞		1979	1974	p6
高橋允昭	J. イポリット著『ヘーゲル歴史哲学序説』	日本読書新聞		1788	1974	p6

中山愈	マンフレッド・リーデルによる「ヘーゲルの《法の哲学》における自然と自由」	鹿児島女子短期大学紀要		9	1974	p49~62
長谷川宏	H. ノール編『ヘーゲル初期神学論集 I・II』	日本読書新聞		1766	1974	p6
増成隆	ヘンクマン『ヘーゲル美学の現代性?』(ヘーデ、リヒター共編『ヘーゲル総決算』所収)	美学	25	3	1974	p55~59
角田修一	見田石介著作集第一巻ヘーゲル論理学と社会科学	立命館経済学	26	2	1977	p377~396
斎藤忍随	カール・レーヴィットの『ヘーゲルからニーチェへ』	理想		528	1977	p2~7
長谷川宏	柄原敏房『ヘーゲル精神現象学研究』	週刊読書人		1169	1977	p4
藤本隆志	岩崎武雄著『カントからヘーゲルへ』	図書新聞		1403	1977	p2
加藤尚武	アヴィネリ『ヘーゲルの近代国家論』	週刊読書人		1260	1978	p5
酒井修	ヘーゲルの『精神現象学』	理想		543	1978	p120~127
四日谷敬子	ペッゲラー編『ヘーゲル』(Hegel-Einführung in seine Philosophie. Hrsg. V. O. Poggeler 1977)	実存主義		85	1978	p102~105
寿福真美	S.アヴィネリ著、高柳良治訳『ヘーゲルの近代国家論』	国学院経済学	26	4	1978	p345~354

松本正男	水野建雄著『ヘーゲルの歴史哲学研究』	実存主義		83	1978	p91~93
K. Riesenhuber	Adolf Schurr『体系としての哲学』(Philosophie als System bei Fichte Schelling und Hegel 1974)	ソフィア	27	1	1978	p58~61
長沼真澄	許萬元『認識論としての弁証法』を読む	科学と思想		31	1979	p154~160
鯨坂真	向井俊彦著『唯物論とヘーゲル研究』	立命館経済学	29	3	1980	p451~462
足立和浩	『弁証法の論理』をめぐる	現代思想	8	7	1980	p214~221
池上 惇	ヘーゲル論理学研究会編『見田石介ヘーゲル大論理学研究 I』	週刊読書人		1317	1980	p4
加藤尚武	体系という思想—廣松渉『弁証法の論理』	思想		677	1980	p116~128
加藤尚武	廣松渉『弁証法の論理』	週刊読書人		1332	1980	p4
赤井正二	J. ドント著、飯塚・飯島訳『知られざるヘーゲル—ヘーゲル思想の源流に関する研究』	唯物論研究		5	1981	p232~233
門倉正美	加藤尚武著『ヘーゲル哲学の形成と原理』—「承認」の不在と関係の存在論	思索		14	1981	p99~104
久野 昭	ベルチンスキー編『ヘーゲルの政治哲学』	週刊読書人		1379	1981	p4
南原一博	テイラーのヘーゲル二書	法学新報(中央大学法学)	86	1・2	1981	p165~179

西村清和	ヘーゲル全集『美学』全九巻-「芸術の終焉」と近代の病理	朝日ジャーナル	23	35	1981	p65~67
廣松渉	『ヘーゲル全集』-現代性を秘めるヘーゲル哲学の魅力	朝日ジャーナル	23	26	1981	p65~67
村越雅雄	向井俊彦著『唯物論とヘーゲル研究』	唯物論研究		5	1981	p226~227
尾崎和彦	ホツェヴァール『ヘーゲルとプロイセン国家』	週刊読書人		1456	1982	p3
島崎隆	ヒンリッヒ・フィンク=アイテル『弁証法と社会倫理学-ヘーゲル『論理学』への注釈的研究』(Hinrich Fink-Eitel:Dialektik und Sozialethik. Kommentierende Untersuchungen zu Hegels Logik 1978)	一橋論叢	87	2	1982	p225~232
今井弘道	笹倉秀夫著『自由人の連帯-ヘーゲル政治思想の形成と展開について-1・2完』(法学雑誌(大阪市大)第二八巻第三・四号、第二九巻第一号)	法制史研究		33	1983	p332~339
尾崎和彦	藤原保信著『ヘーゲル政治哲学講義』	図書新聞		1657	1983	p3

庄司和晃	三浦つとむ 弁証法に関する二著—『新しいものの見方考え方』	図書新聞		1683	1983	p3
三吉敏宏	ローゼンクランツ『ヘーゲル伝』	週刊読書人		1507	1983	p6
渡辺二郎	大橋良介著『ヘーゲル論理学と時間性—場所の現象学へ—』	創文		238	1983	p15~18
青木茂	岩波哲男著『ヘーゲル宗教哲学の研究』	創文		246	1984	p19~22
内田 弘	グリアン『ヘーゲルと危機の時代の哲学』	週刊読書人		1517	1984	p4
加藤尚武	ヴォルフ『矛盾の意味』	週刊読書人		1539	1984	p3
河上倫逸	谷喬夫著『ヘーゲルとフランクフルト学派—政治哲学の根本問題』	史学雑誌	93	3	1984	p371~378
久野 昭	ドント『ベルリンのヘーゲル』	週刊読書人		1517	1984	p4
島崎隆	Henri Wald Introduction to Dialectical Logik	一橋論叢	91	1	1984	p119~127
野家啓一	R・ブプナー著、加藤尚武・伊坂青司・竹田純郎訳『弁証法と科学』	科学哲学		17	1984	p154~156
星野勉	Wilfried Ver Eecke Hegel on Economics and Freedom(Archiv f-Rechts und Sozialphilosophie Bd.69 1983)	理想		618	1984	p257~259



松島正一	David Punter Blake Hegel and Dialectic (1982)	英文学研究 (日本英文学 会)	61	1	1984	p125~130
山口誠一	Michael Inwood Hegel on Action (Royal Institute of Philosophy Lectures Series 13 1982)	理想		614	1984	p203~205
山田忠彰	佐々木孝洋『若きヘーゲ ルの思索』	週刊読書人		1555	1984	p5
財津 理	マシュレ『ヘーゲルかスピ ノザか』	週刊読書人		1626	1986	p4
高山守	W. C. ツィンマリ『ポテン ツ論対自然哲学の論 理』	理想		633	1986	p229~232
中埜肇	藤田正勝著『若きヘーゲ ル』	創文		268	1986	p17~20
氷見潔	岩波哲男著『ヘーゲル宗 教哲学の研究』	哲学研究	47	10	1986	p180~187
山口祐弘	藤田正勝『若きヘーゲ ル』	週刊読書人		1627	1986	p3
加藤精司	コジェーヴ『ヘーゲル読 解入門』	週刊読書人		1712	1987	p4
久保陽一	ヘンリッヒ・ヤメ編「ヤーコ プ・ツイヴィリングの遺稿」 (『ヘーゲル研究(Hegel- Studien)』別冊28巻、ボ ン、1986年	ヘーゲル研 究		2	1987	p30~31
四竈正夫	『ヘーゲルかスピノザか』 ピエール・マシュレ著、鈴 木一策・桑田礼彰訳	文明		49	1987	p74~81
清水多吉	良知力著『ヘーゲル左派 と初期マルクス』	図書新聞		1888	1987	p3

滝口清栄	良知力『ヘーゲル左派と初期マルクス』	週刊読書人		1713	1987	p4
谷 徹	フィンク『ヘーゲル』	週刊読書人		1709	1987	p4
藤田正勝	解釈と対決－ハイデッガー著『ヘーゲル「精神現象学」』をめぐって	創文		283	1987	p9～12
藤田正勝	オイゲン・フィンク著『ヘーゲル－〈精神現象学〉の現象学的研究』(加藤精司訳)	図書新聞		1883	1987	p3
牧野広義	『ヘーゲル－伝記と学説』Georg Biedermann 著、尼寺義弘訳(阪南大学叢書9)	阪南大学産業経済研究所報		17	1987	p71～73
山本耕一	柴田高好著『ヘーゲルの国家理論』	図書新聞		1858	1987	p3
桂 秀実	アレクサンドル・コジェーヴ『ヘーゲル読解入門』(上妻精・今野雅方訳)	図書新聞		1893	1988	p3
高山守	デイヴィッド・コープ著『純粋現代性批判－ヘーゲル;ハイデガーと、その後』	理想		638	1988	p111～116
藤田正勝	ヘンリッヒ『ヘーゲル哲学のコンテクスト』	週刊読書人		1720	1988	p4
松生建[紹介]	イゴール・プリモラツ著「バンクオーの亡霊－ヘーゲルの刑罰理論」	海保大研究報告 法文学系	35	2	1989	p35～67

岩崎稔	南原一博著『政治哲学の変換－ヘーゲルと西洋近代』	週刊読書人		1767	1989.1.23	p7
高柳良治	南原一博著『政治哲学の変換－ヘーゲルと西洋近代』	図書新聞	626	1943	1989.1.28	p3
滝口清栄	城塚登・濱井修編『ヘーゲル社会思想と現代』	週刊読書人		1795	1989.8.14	p3
入江幸男	山口祐弘著『近代知の返照－ヘーゲルの真理思想』	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p250～253
多田茂	K. デュージング『シェリングとヘーゲルの最初の絶対的形而上学(1801-1802)』(ケルン1988年)	ヘーゲル研究(上妻精・加藤尚武編)		18	1990	p25～28
中埜肇	山口誠一著『ヘーゲル哲学の根源－精神現象学の問いの解明』	法政		407	1990	p42～43
早瀬明	南原一博著『政治哲学の変換－ヘーゲルと西洋近代』	ヘーゲル学報		創刊号	1990	p253～260
武田趙二郎	ヘーゲル『惑星軌道論』	法政		417	1991	p32～33
星野 勉	佐藤康邦著『ヘーゲルと目的論』	図書新聞		2061	1991	p3
岩崎稔	ガダマー著『ヘーゲルの弁証法』(山口誠一・高山守訳)	週刊読書人		1870	1991.2.11	p4
山田忠彰	佐藤康邦『ヘーゲルと目的論』	週刊読書人		1883	1991.5.20	p4
石井伸男	幸津國生『哲学の欲求』	唯物論		66	1992	p115～118

岩佐茂	ヘーゲル論理学研究会 編『ヘーゲル大論理学概 念論の研究』	思想と現代	28		1992	p134~135
栗原隆	解釈者の消えたところか らテキストは語るー『ヘー ゲル事典』の存立機制を めぐって	愛知(神戸大 学哲学懇話 会)		8	1992	p38~41
週刊文春編 集部	歴史の終わりー私はこちら 読んだ(加藤尚武・渡部 昇一・田久保忠衛・中曾 根康弘・江藤淳・林健太 郎・本間長世・栗本慎一 郎・福田和也)	週刊文春	34	13	1992	p216~220
鼓澄治	山口誠一著『ヘーゲル哲 学の根源』	ヘーゲル学 報		2	1992	p118~124
尼寺義弘[紹 介]	ヘーゲル推理論とマルクス 価値形態論(阪南大学叢 書 40)	阪南大学産 業経済研究 所年報		21	1992	p73~76
橋本信	青山政雄『社会批判の哲 学ーヘーゲル, マルク ス, マルクーゼ研究序 説』	哲学	28		1992	p47~52
橋本信	「社会批判の哲学ーヘー ゲル, マルクス, マルクー ゼ研究序説」青山政雄	哲学(北海道 大学哲学会)		28	1992	p47~52
山本冬樹	佐藤康邦著『ヘーゲルと 目的論』	実存思想論 集	7		1992	p179~182
両角英郎	ヘーゲル論理学研究会 編『ヘーゲル大論理学概 念論の研究』	唯物論と現代	10		1992	p77~81
滝口清栄	ヘーゲル『哲学史講義上 巻』	週刊読書人		1929	1992.4.13	p4

川本隆史	加藤尚武他編『ヘーゲル事典』	週刊読書人		1930	1992.4.20	p4
杉田正樹	加藤尚武『哲学の使命』	図書新聞		2132	1993	p4
高山守	伊坂・長島・松山『ドイツ観念論と自然哲学』	週刊読書人		2039	1994.6.24	p4
伊藤功	クラウス・デュージング「プラトンとヘーゲルにおける存在論と弁証法」	ヘーゲル論 理学研究		創刊号	1995	p145～148
海老澤善一	G.ギュンターの『反省の論理学』について	『一般教育論集』(愛知大学)		8	1995	p91～102
岡田敦子	『美学講義(上)』ヘーゲル著 長谷川宏訳—芸術の終焉、逆襲する近代	文学界	49	10	1995	p264～267
小川真人	ディーター・ヘンリヒ著『意識の中の根拠』	ヘーゲル哲学研究		1	1995	p87～88
小坂田英之他	G.W.F.ヘーゲル「1817年の論理学と形而上学講義」について	ヘーゲル論 理学研究		創刊号	1995	p108～133
金沢秀嗣	プライネス「ヘーゲルにおける究極の基礎付けとしての弁証法」	ヘーゲル論 理学研究		創刊号	1995	p154
久保陽一	後期ヘーゲルの宗教哲学の解明—山崎純『神と国家—ヘーゲルの宗教哲学』	創文		367	1995	p23～26
幸津國生	歴史における実践の基礎付けへの問い—加藤尚武『哲学の使命 ヘーゲル哲学の精神と世界』によせて	人間研究		31	1995	p19～23

柴田隆行	グッツオーニ『自己となること—ヘーゲル「論理の学」の研究』	ヘーゲル論 理学研究			創刊号	1995	p138~141
渋谷繁明	ヴァルター・イェシュケ「外的反省と内在的反照」	ヘーゲル論 理学研究			創刊号	1995	p149~150
島崎隆	A Hegel Dictionary/Michael Inwood(1992)	一橋論叢	113	4		1995	p494~501
島崎隆	ヨハン・ハインリッヒ・ト レーデ「ヘーゲルの初期 論理学」	ヘーゲル論 理学研究			創刊号	1995	p142~144
島崎隆	Wolfgang Bialas: Von der Theologie der Befreiung zur Philosophie der Freiheit—Hegel und Religion(1993)	一橋論叢	113	2		1995	p291~298
藤本忠	ポール・オーエン・ジョン ソン『思惟の批判—ヘー ゲルの論理学の再吟味』	ヘーゲル論 理学研究			創刊号	1995	p151~153
山崎純	自著紹介『神と国家— ヘーゲル宗教哲学』—そ の目次と主な内容	ヘーゲル哲 学研究			1	1995	p89~90
伊坂青司	上妻精他編『ヘーゲル』	週刊読書人			2069	1995.1.27	p4
山田忠彰	竹村喜一郎『ヘーゲル哲 学の方位』	週刊読書人			2084	1995.5.19	p4
伊藤功	W.マルクス『思弁的学と 歴史的連続性』	ヘーゲル論 理学研究			2	1996	p161
伊藤一美	ドナイエフスカヤ「新始元 としてのヘーゲルの絶対 者」	ヘーゲル論 理学研究			2	1996	p168~171

岩波哲男	青木茂著『ヘーゲルのキリスト論—十字架の哲学』	日本の神学		35	1996	p173~177
金沢秀嗣	ハンス・フリードリヒ・ダヴ『思弁的始元について』	ヘーゲル論 理学研究		2	1996	p162~164
木村 博・高山 守	島崎隆著『ヘーゲル弁証法と近代認識—哲学への問い』	ヘーゲル哲学 学研究		2	1996	p111~113
紺野馨	長谷川宏『ヘーゲルを読む』	文学界	50	3	1996	p282~285
柴田隆行	アルブレヒト『ヘーゲルによる神の証明』	ヘーゲル論 理学研究		2	1996	p159~160
高橋一行	ブラウン「ヘーゲル論理学におけるスピノザ主義」	ヘーゲル論 理学研究		2	1996	p172
竹島尚仁	ヴィーラント「ヘーゲル論理学の始元についての注解」	ヘーゲル論 理学研究		2	1996	p165~167
山脇 雅夫	最近の論理学研究論文批評—ホーゲマン、ラマイル2論文について	ヘーゲル哲学 学研究		2	1996	p116~118
柴田隆行	長谷川宏『ヘーゲルを読む』	週刊読書人		2117	1996.1.12	p4
入江幸男	思想史の方法—山口祐弘著「意識と無限」を読んで	ヘーゲル哲学 学研究		3	1997	p118~120
岩佐茂	存在論と認識論のはざまを埋めようとする試み—有井行夫・長島隆編『現代認識とヘーゲル=マルクス』	理想		659	1997	p140~144
金沢秀嗣	K.R.ダヴ「ヘーゲルにおける論理と法」	ヘーゲル論 理学研究		3	1997	p146~149

木村博	W.ヤンケ「私は私である: 定立判断ないし思弁命題」	ヘーゲル論 理学研究	3	1997	p142~145
柴田隆行	ドーズ『ヘーゲル論理学 と存在論の問題』	ヘーゲル論 理学研究	3	1997	p131~133
早瀬明	Birger P.Priddat:Hegel als ökonom.1990, Duncker & Humblot Berlin, 330S	ヘーゲル哲 学研究	3	1997	p121~123
藤田俊治	トイニッセン「威力の危 機」	ヘーゲル論 理学研究	3	1997	p138~141
松田央	青木茂著『ヘーゲルのキ リスト論—十字架の哲 学』南窓社(1994年)	ヘーゲル哲 学研究	3	1997	p116~118
松本正男	ヘーゲル論理学の可能 性を示唆—久保陽— 『ヘーゲル論理学の基 底』	創文	390	1997	p25~27
池田成一	ミハエル・クヴァンテ著 『ヘーゲルの行為の概 念』	ヘーゲル哲 学研究	4	1998	p70~72
笠原賢介	Christoph Menke:Tragodie im Sittlichen.Gerechtigkeit und Freiheit nach Hegel.Suhrkamp Frankfurt am Main 1996 334 S.[和文]	ヘーゲル哲 学研究	4	1998	p67~69
久保陽一	ホルストマン『存在論と関 係』	ヘーゲル論 理学研究	4	1998	p142~147
藤田俊治	デュージング「ヘーゲル の思弁的論理学における 推論と弁証法」	ヘーゲル論 理学研究	4	1998	p148~152



細川亮一	ヘーゲルの新しい解釈空間を開く—山口誠—『ヘーゲルのギリシア哲学論』—	創文		402	1998	p20~22
山口誠一	失われた哲学の眼差しを求めて—拙著『ヘーゲルのギリシア哲学論』上梓に寄せて—	創文		400	1998	p14~17
高山守	壮大な思索の冒険・ヘーゲル哲学のルーツを求めて—山口誠一著『ヘーゲルのギリシア哲学論』—	週刊読書人		2241	1998.6.26	p4
板井孝一郎	加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』崩壊してゆく偉大な体系家ヘーゲル—という虚像	モルフォロギア		21	1999	p168~171
木村博	W.ヤーコプス・P.エスターライヒ編『フィヒテ著作集』(全2巻)	ヘーゲル論 理学研究		5	1999	p164~169
高橋一行	クラウス・デュージング「実体から主体へ:ヘーゲルの思弁的なスピノザ解釈」フェリシタス・エングリッシュ記録「討論会:ヘーゲルとスピノザ」	ヘーゲル論 理学研究		5	1999	p162~163
原田哲史	ビルガー・P・ブリッタート著(高柳良治他訳)『経済学者ヘーゲル』	國學院経済学	48	1	1999	p21~31

牧野広義	福吉勝男著『ヘーゲルに還る』	図書新聞		2445	1999	p3
山脇雅夫	ペーター・ライジンガー「反省と自我概念」	ヘーゲル論 理学研究		5	1999	p160~161
渡辺祐邦	ミヒャエル・ヴォルフ「ヘーゲルとコーシー 数学の哲学と数学史のための研究」	ヘーゲル論 理学研究		5	1999	p156~159
今泉文子	伊坂青司著『ヘーゲルとドイツ・ロマン主義』	図書新聞		2486	2000	p3
久保陽一	伊坂青司『ヘーゲルとドイツロマン主義』	神奈川大学 評論		36	2000	p132~133
久保陽一	イエーナ論理学の発展史における二度の転期—ハリスによるヘーゲルのイエーナ体系構想研究	ヘーゲル論 理学研究		6	2000	p175~178
柴田隆行	書評 工藤豊著『ヘーゲルにおける自由と近代性』	アソシエ		4	2000	p363~366
柴田隆行	書評 崩落するヘーゲル像—加藤尚武編『ヘーゲル哲学への新視角』および最近の日本におけるヘーゲル研究	思想		913	2000	p161~170
滝沢昌彦	筏津安恕『失われた契約理論—プーフェンドルフ・ルソー・ヘーゲル・ボワソナード』	法律時報	72	3	2000	p104~106
中畑邦夫	スタンリー・ローゼン『G.W.F.ヘーゲル 知の科学への誘い』	ヘーゲル論 理学研究		6	2000	p186~189

福吉勝男	井上和雄著『さらばヘーゲル』	図書新聞		2480	2000	p5
牧野広義	高村是認著『ヘーゲル「小論理学」を読む』(上)(下)	唯物論と現代		25	2000	p94~96
松山壽一	山口誠一著「ヘーゲルの新プラトン主義哲学理解—東西両哲学の融合地点を求めて」山口誠一著『ヘーゲルのギリシア哲学論』	シェリング年報		8	2000	p106~108
森本司	水野雄雄著『ディルタイの歴史認識とヘーゲル』	ディルタイ研究		11	2000	p67~75
池田成一	小川真人『ヘーゲルの悲劇思想』	ヘーゲル哲学研究		7	2001	p71~75
伊坂青司	寄川条路『体系への道—初期ヘーゲル研究』	ヘーゲル哲学研究		7	2001	p63~66
清浦康子	伊坂青司著『ヘーゲルとドイツ・ロマン主義』	シェリング年報		9	2001	p127~129
高橋晃	K.デュージング『カントとヘーゲルにおける自然目的論と形而上学』	ヘーゲル論理学研究		7	2001	p148~149
滝口清栄	高柳良治『ヘーゲル社会理論の射程』	ヘーゲル哲学研究		7	2001	p67~70
早瀬 明	高柳良治『ヘーゲルの社会理論の射程』	国学院経済学	49	2	2001	巻末p204~194
荒又重雄	随想 ヘーゲルを訳す—長谷川宏訳『ヘーゲル小理論学』によせて	唯物論(札幌唯物論研究会)		47	2002	p76~78
岩城見一	小川真人『ヘーゲルの悲劇思想』	美学	53	3	2002	p92~94

大西正人	高山守著『ヘーゲル哲学と無の論理』	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p152~162
小坂田英之	速川治郎著『科学理論におけるヘーゲル大論理学批判』	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p152~158
久保陽一	J. ドント著『ヘーゲル伝』(飯塚勝久訳)	図書新聞		2567	2002	p3
柴田隆行	片山善博『自己の水脈—ヘーゲル〈精神現象学〉の方法と経験—』	唯物論		76	2002	p109~111
島崎 隆	熊野純彦著『ヘーゲル—〈他なるもの〉をめぐる思考』	図書新聞		2589	2002	p5
杉田孝夫	『法哲学要綱』の思想史的な位置と意味を確定する—ヘーゲル理解の再検討を促す—	図書新聞		2610	2002	p5
竹内真澄	石井伸男著「マルクスにおけるヘーゲル問題」	高崎経済大学論集	45	1	2002	p109~117
竹島尚仁	海老澤善一著『ヘーゲル論理学研究序説』	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p164~171
田端信広	高山守著『ヘーゲル哲学と無の論理』—「表向きのヘーゲル理解」の最終的解体を企てる本格的・挑戦的絶対者論	情況	3	3	2002	p240~253
早瀬明	藤井哲郎著『ヘーゲルにおける共和主義と市民社会』	ヘーゲル哲学研究		8	2002	p146~151
山口誠一	細川亮一著『ヘーゲル現象学の理念』	『法政』		546	2002	p14

山脇雅夫	久保陽一著『ヘーゲル論理学の基底』	ヘーゲル論理学研究		8	2002	p159~163
伊藤 功	山口誠一著『ヘーゲルのギリシア哲学論』(東京:創文社、1998年)	新プラトン主義研究		2	2003	p85~91
江崎一郎	チャールズ・テイラー「弁証法の現在—あるいは自己否定の諸構造」	ヘーゲル論理学研究		9	2003	p157~161
太田 徹	J. P. アントン『アリストテレスのカテゴリ論の同音異義語論とプラトン派の先行研究』/T. H. イルヴァイン『アリストテレスの同音異義語』	ヘーゲル論理学研究		9	2003	p153~156
小松善雄	G.W.F.ヘーゲル,尼寺義弘訳『自然法および国家学に関する講義—1817/18冬学期講義,ハイデルベルク—1818/19冬学期序説(付録),ベルリン』	阪南論集 社会科学編	38	2	2003	p37~47
佐野之人	幸津國生著『意識と学—ニュルンベルク時代ヘーゲルの体系構想』	ヘーゲル學報		5	2003	p171~179
田村一郎	高田純著『実践と相互人格性—ドイツ観念論における承認論の展開』	ヘーゲル學報		5	2003	p179~187
飛鷹節	家族と国家(稲葉稔著、晃洋書房、2002年刊)	大阪人間科学大学紀要		2	2003	p159~162

中島秀憲	鼓澄治著『罪と赦し—ひとつのヘーゲル解釈』を読んで	ヘーゲル學報		5	2003	p163~171
尼寺義弘	叢書紹介『G.W.F.ヘーゲル「自然法および国家法」——『法の哲学』第二回講義録1818/1819年,冬学期,ベルリン』	阪南大学産業経済研究所年報		32	2003	p29~31
深草正博	荒井正雄著『西田哲学読解——ヘーゲル解釈と国家論』	皇学館論叢 (皇学館大学人文学会)	36	3	2003	p60~63
松本潤一郎	ヘーゲルを誤読する(1)分離と浸透(ナンシー『ヘーゲル 否定的なもの不安』に寄せて)	情況	4	9	2003	p166~179
安川慶治	ナンシー『ヘーゲル 否定的なもの不安』	週刊読書人		2494	2003	p3
木村博	松本正男著『ドイツ観念論における超越論的自我論—大文字の〈私〉—その第五・六章を中心に—	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p150~153
菅沢龍文	松本正男著『ドイツ観念論における超越論的自我論』第一章・第二章について	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p142~145
徳増多加志	カントの演繹論とヘーゲルの論理学—松本正男著『ドイツ観念論における超越論的自我論』(第四章)に寄せて	ヘーゲル哲学研究		10	2004	p146~149

	アクセル・ホネット著「承認をめぐる闘争」(法政大学出版局)	週刊読書人		2525	2004	p4
加藤尚武	「可塑性」概念の有効性—《書評》カトリーヌ・マラブー『ヘーゲルの未来』	未来		469	2005	p21~25
小島優子	合評会 寄川条路著『構築と解体—ドイツ観念論の研究—』(晃洋書房2003), 「思弁」と「宗教」—ヘーゲルの体系における宗教の位置づけ	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p131~134
渋谷繁明	フルダ著『ゲオルグ・ヴィルヘルム・フリードリヒ・ヘーゲル』	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p140~147
山田有希子	合評会 寄川条路著『構築と解体—ドイツ観念論の研究—』(晃洋書房2003), ヘーゲルは「無」を取り扱っていないのか?	ヘーゲル哲学研究		11	2005	p135~139
石川伊織	ゲートマン=ジーフェルト他編『芸術の哲学または美学、ヘーゲルによる1826年夏』フィンク書店、2004年	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p203~208
大石雄爾	角田修一著『「資本」の方法とヘーゲル論理学』	季刊経済理論	43	2	2006	p91~93

角田修一	吉田浩著『ウェーバーとヘーゲル、マルクス』	唯物論と現代 (関西唯物論研究会)	37		2006	p115~117
角田修一	大石雄爾著『ヘーゲル論理学の真相』	季刊経済理論	43	2	2006	p94~96
片山善博	コッホ他編著『ヘーゲル論理学』アカデミー出版社、2002年	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p199~202
佐山圭司	加藤尚武・滝口清栄編『ヘーゲルの国家論』理想社、2006年	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p183~186
柴崎律	津田道夫著『国家と意志—意志論から読む「資本論」と「法の哲学」—国家・市民社会の意思論的再定義—クロスオーバーするヘーゲルとマルクス』	情況第三期	7	6	2006	p219~222
関根猪一郎	大石雄爾著『ヘーゲル論理学の真相—「普通の理解力」で読むヘーゲル論理学の有論』	政経研究(政治経済研究所)	87		2006	p121~127
徳増多加志	ルーカス他編『ヘーゲル哲学のエンチクロペディ的体系』フロムマン社、2004年	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p191~198
牧野広義	角田修一著『「資本」の方法とヘーゲル論理学』	唯物論と現代 (関西唯物論研究会)	37		2006	p118~120
満井裕子	イェシュケ著『ヘーゲル便覧—生涯と作品とその影響について—』メッツラー社、2003年	ヘーゲル哲学研究		12	2006	p187~190



山口誠一	松山壽一著『知と無知—ヘーゲル、シェリング、西田—』	週刊読書人		2666	2006	p4
吉田浩	角田修一氏著『「資本」の方法とヘーゲル論理学』について	唯物論と現代 (関西唯物論研究会)	38		2006	p66~83
大石雄爾	書評へのリプライ『ヘーゲル論理学の真相』に対する書評(評者:角田修一氏)へのリプライ	季刊経済理論	44	1	2007	p83~85
角田修一	書評へのリプライ『「資本」の方法とヘーゲル論理学』に対する書評(評者:大石雄爾氏)へのリプライ	季刊経済理論	44	1	2007	p86~88
杉田孝夫	フレデリック・C・ビーザー著ラウトレッジ社、2005年『ヘーゲル』	ヘーゲル哲学研究	13		2007	p204~209
鈴木正仁	吉田浩著『ウェーバーとヘーゲル、マルクス』	ソシオロジ(社会学研究会)	52	1	2007	p145~150
山田有希子	W・ヴェルシュ・K・フィーヴェーク編著フィンク社、2003年『思考の関心—今日的視点から見たヘーゲル』	ヘーゲル哲学研究	13		2007	p210~212
海老澤 善一	幸律國生著『ヘーゲル体系における意識と理念と実在性』	ヘーゲル哲学研究		14	2008	167~174
太田 徹	山口祐弘著『ヘーゲル哲学の思惟方法—弁証法の根源と課題』	ヘーゲル哲学研究		14	2008	162~166

大橋 基	ヘーゲル社会哲学の透視図—滝口清栄著『ヘーゲル『法(権利)の哲学』形成と展開』を読む	法政哲学	4	2008	67~70
久保 陽一	フォルスター『ヘーゲルの精神現象学の理念』	ヘーゲル論 理学研究	14	2008	145~159
荒井 正雄	ヘーゲルの国家論—新視点からの解釈 久保健吉著『ヘーゲル国家論の原理—「市民自治」と「市民倫理」—』を読む	哲学と教育	56	2009	29~38
佐山 圭司・ 片山 善博・ 竹島 あゆみ	滝口清栄著『ヘーゲル『法(権利)の哲学』形成と展開』	ヘーゲル哲 学研究	15	2009	142~152
高柳 良治	『ヘーゲル「法(権利)の哲学」形成と展開』(滝口清栄著)	社会思想史 研究	33	2009	186~190
高山 守	『感性の精神現象学—ヘーゲルと悲の現象論』を読んで (特集『感性の精神現象学』を読む)	創文	525	2009	224~150
中畑 邦夫	グレアム・プリースト著『思考の限界を越えて』	ヘーゲル論 理学研究	15	2009	149~152
尼寺 義弘	叢書紹介 G.W.F.ヘーゲル『法の哲学』—『法の哲学』第四回講義録—1821/22年 冬学期 ベルリン、—キール手稿—	阪南大学産 業経済研究 所年報	38	2009	22~25

大石昌史	大橋良介著 感性の精神現象学—ヘーゲルと悲の現象論—	美学(美学会編)	1	61	2010	p145~148
小川仁志	久田健吉著 ヘーゲル国家論の原理—「市民自治」と「市民倫理」—	人間文化研究所年報		5	2010	p91~93
野尻英一	ジュディス・バトラ著 欲望の主体—二十世紀フランスにおけるヘーゲル哲学の影響	ヘーゲル哲学研究		16	2010	p152~159
福島聡	山口誠一著『ニーチェとヘーゲル—ディオニュソス哲学の地下通路—』	『書標』		377	2010	p5
満井裕子	寄川条路著 ヘーゲル哲学入門	ヘーゲル哲学研究		16	2010	p160~165
植村邦彦	滝口清栄著 マックス・シュティルナーとヘーゲル左派	社会思想史研究・社会思想史学会年報		35	2011	p177~181
大西正人	山口誠一著『ニーチェとヘーゲル—ディオニュソス哲学の地下通路—』	法政哲学		7	2011	p63~66
大西正人	山口誠一著『ニーチェとヘーゲル—ディオニュソス哲学の地下通路—』を読む	法政哲学		7	2011	p63~66
小川真人・山田忠彰・杉田正樹	合評会 山口誠一著・法政大学出版局・二〇一一年『ニーチェとヘーゲル—ディオニュソス哲学の地下通路—』	ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編)		17	2011	pp.190~200

尾崎誠	山口誠一著『ニーチェとヘーゲル—ディオニュソス哲学の地下通路—』	法華仏教研究会『法華仏教研究』	2	2011	
片山善博	滝口清栄著 マックス・シュティルナーとヘーゲル左派	法政哲学	7	2011	p55~58
久田健吉	福吉勝男著 現代の公共哲学とヘーゲル	人間文化研究所年報	6	2011	p70~73
山脇雅夫・早瀬明・加藤尚武	合評会	山口祐弘著・学術出版会・二〇一〇年『ドイツ観念論の思索圏—哲学的反省の展開と広さ—』	17	2011	pp.178~189
石黒盛久	笹倉秀夫著政治の覚醒—マキャヴェッリ・ヘーゲル・ヴェーバー—	社会思想史研究	37	2013	pp.178~182
片山善博・川瀬和也・徳増多加志	合評会 野尻英一著・社会評論社・二〇一〇年『意識と生命—ヘーゲル『精神現象学』における有機体と「地」のエレメントをめぐる考察—』	ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編)	19	2013	pp.179~190
清家竜介	高橋一行著知的所有論	社会理論研究	14	2013	pp.129~131
滝口清栄・寄川条路・飯泉祐介	合評会 小島優子著・知泉書館・二〇一一年『ヘーゲル 精神の深さ—『精神現象学』における「外化」と「内化」—』	ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編)	19	2013	pp.166~178

寄川条路	神山伸弘編ヘーゲルとオ リエントーヘーゲル世界 史哲学にオリエント世界 像を結ばせた文化接触 資料とその歴史像の反歴 史性	19	2013	pp.191~203
------	--	----	------	------------